

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

八代市教育委員会

## 1 はじめに

八代市教育委員会では、八代市の子供たちの学力がどのような状況にあるかを把握し、指導の改善等に生かすため、平成20年度から毎年「全国学力・学習状況調査」を活用しています。

今回の八代市の調査結果を、全国の調査結果と比較することにより、取組の成果と課題が見えてきました。この結果を市民の皆様と共有することにより、八代市の子供たちの「確かな学力」の育成に取り組んでいきたいと考えます。

なお、今回の調査で得られた結果は、子供たちの「学力の一部」であることから、今後様々な検証を行い、子供たちの学力を多面的に把握し、更なる指導の改善に努めていきます。

## 2 調査の概要

(1) 調査実施日 令和4年4月19日(火)

(2) 調査対象 小学校6年生、中学校3年生の児童生徒

(3) 調査内容

ア 児童生徒に関する調査

(ア) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に対し、以下のとおりとされた。

- ① 身に付けておかなければならない後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記の①、②を一体的に問うこととされた。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入された。

(イ) 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

イ 学校質問紙調査

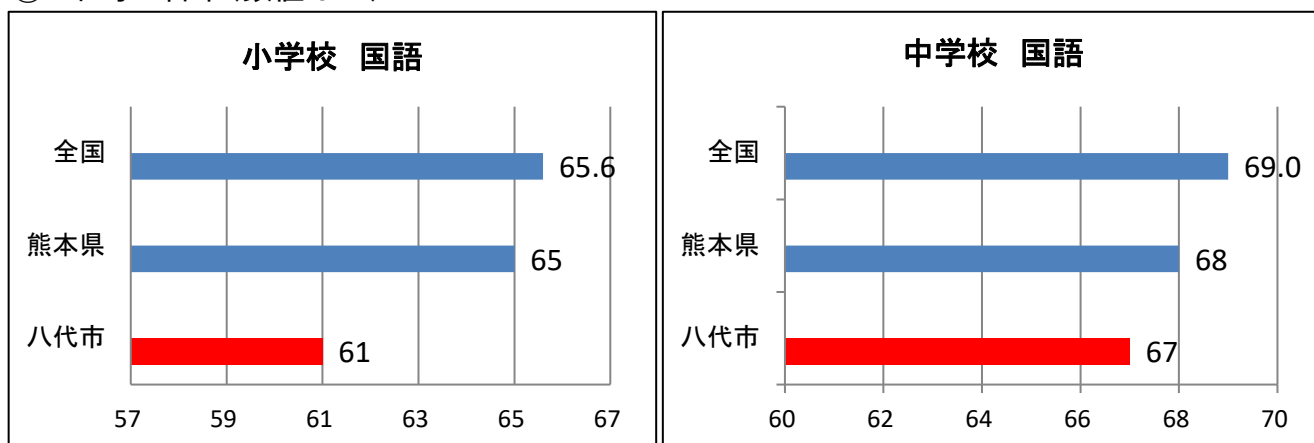
学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

### 3 調査結果の概況

#### (1) 教科に関する調査結果

#### ア 国語

##### ① 平均正答率(数値は%)



##### ② 学習指導要領の内容(全国の平均正答率との差)

###### 【小学校 国語】

知識・技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	-3.9
	情報の扱い方に関する事項	
	我が国の言語文化に関する事項	2.6
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	-4.1
	書くこと	-2.1
	読むこと	-7.1

###### 【中学校 国語】

知識・技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	-2.6
	情報の扱い方に関する事項	-0.5
	我が国の言語文化に関する事項	0
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	-4.2
	書くこと	-0.5
	読むこと	-3.4

##### ③ 調査結果のポイント

○小学校、中学校ともに、「我が国の言語文化に関する事項」については、定着している。

###### 【小学校 国語】

○「読むこと」において、登場人物の相互関係について、描写を基に捉えたり、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。「どのように描かれているか」の表現面にも着目して読む場面を設定することを意識する。

○「話すこと・聞くこと」において、学習指導要領で新たに示された、相手とのつながりをつくる言葉の働きを捉えることに課題がある。話合いの中で様々な表現を用いることができるよう指導することが大切である。

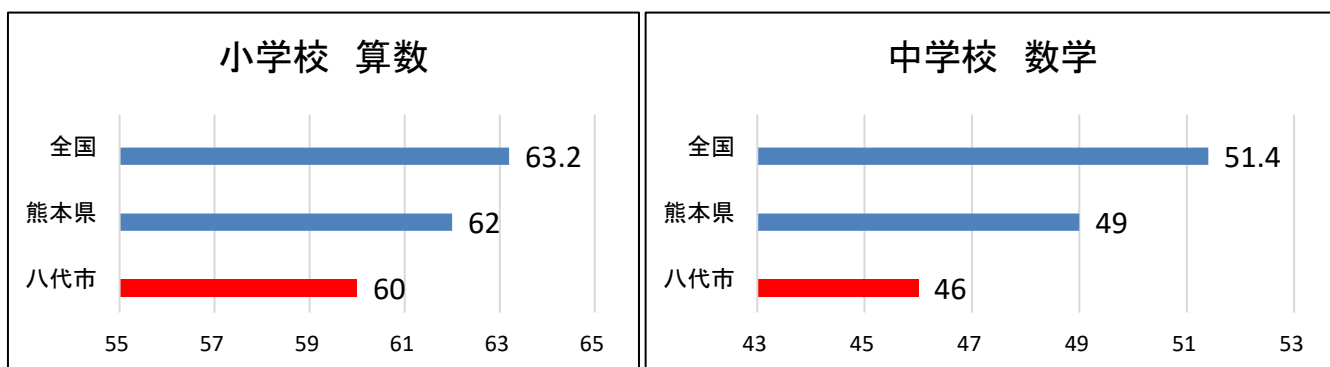
###### 【中学校 国語】

○「話すこと・聞くこと」において、論の展開に注意しながら内容を聞き、話全体がどのようにまとめられようとしているのかを考えることに課題がある。話合いの場面で、互いの考えを比較したり、聞き取った内容や表現の仕方を評価したりする視点をもっているか確認する。

○「読むこと」において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることに課題がある。小学校からの系統的な学びを意識して指導することが大切である。

## イ 算数・数学

### ① 平均正答率(数値は%)



### ② 学習指導要領の内容(全国の平均正答率との差)

#### 【小学校 算数】

A 数と計算	-2.6
B 図形	-3.3
C 測定	
C 変化と関係	-3.5
D データの活用	-5.7

#### 【中学校 数学】

A 数と式	-6.6
B 図形	-6.6
C 関数	-6.2
D データの活用	-2.5

### ③ 調査結果のポイント

#### 【小学校 算数】

○示された場面において、目的にあった数の処理の仕方を考察することに課題がある。日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きく見たり小さく見たりして、適切に概算できるような場面を設定した授業づくりを行う。

○分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察することに課題がある。日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理したり、データの特徴や傾向に着目して考察できるように指導することが大切である。

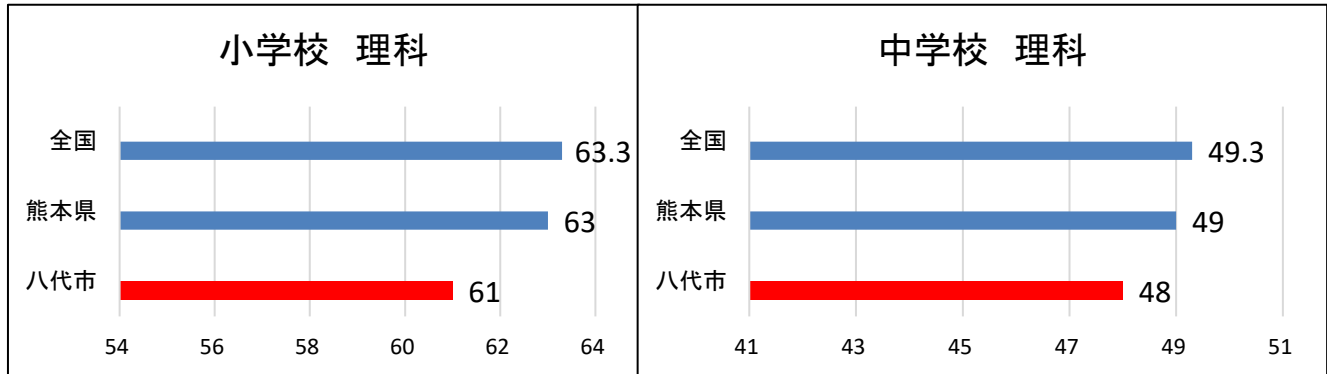
#### 【中学校 数学】

○「数と式」において、事象を数学的に考察する場面において、特徴を的確に捉え、筋道を立てて考え、説明することに課題がある。すでに成り立つ事柄を基に、前提を変えても成り立つ場合を考えて話し合う活動を授業に取り入れる。

○「図形」の性質を考察する場面で、成り立つと予想した事柄について、論理的に考察し、数学的に表現することに課題がある。結論を導くための条件整理や着目する性質・関係を生徒が見だし、筋道を立てて考える活動を取り入れることが大切である。

## ウ 理科

### ① 平均正答率(数値は%)



### ② 学習指導要領の内容(全国の平均正答率との差)

#### 【小学校 理科】

「エネルギー」を柱とする領域	-1.1
「粒子」を柱とする領域	-1.0
「生命」を柱とする領域	-4.6
「地球」を柱とする領域	-2.8

#### 【中学校 理科】

「エネルギー」を柱とする領域	-0.7
「粒子」を柱とする領域	-1.1
「生命」を柱とする領域	-1.2
「地球」を柱とする領域	-0.6

### ③ 調査結果のポイント

○平成30年度の前回の調査では、全国平均、熊本県平均を上回る平均正答率であったが、今回は国、県共に平均正答率を下回る結果だった。

#### 【小学校 理科】

○基礎的な知識を問う問題については、正答率が高かった。

○学習指導要領で求められる問題解決の力を問う問題が多く出題されており、中でも児童自らが「問題を見いだす」ことについては、気付いたことを基に分析して適切な問題を見いだすことに課題が見られる。児童それぞれの気付きから、差異や共通点を基に問題を見いだす場面を設定することが大切である。

#### 【中学校 理科】

○「生命」の領域で、実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述したり、予想や仮説と異なる結果の意味することや考えられる可能性について考えることに課題がある。課題を解決するまでの探究の過程を見通し、適切な探究や話し合い活動などの学習場面を設定することが考えられる。

○学習指導要領において重視されている科学的に探究する学習の中で、他者の考えの妥当性を検討したり、実験の計画が適切であるか検討して改善することに課題がある。

今回の課題として挙げられる項目は、前回の調査から引き続き課題となっている。授業で学んだことを実生活の様々な場面で活用する機会を意識して取り入れる必要がある。

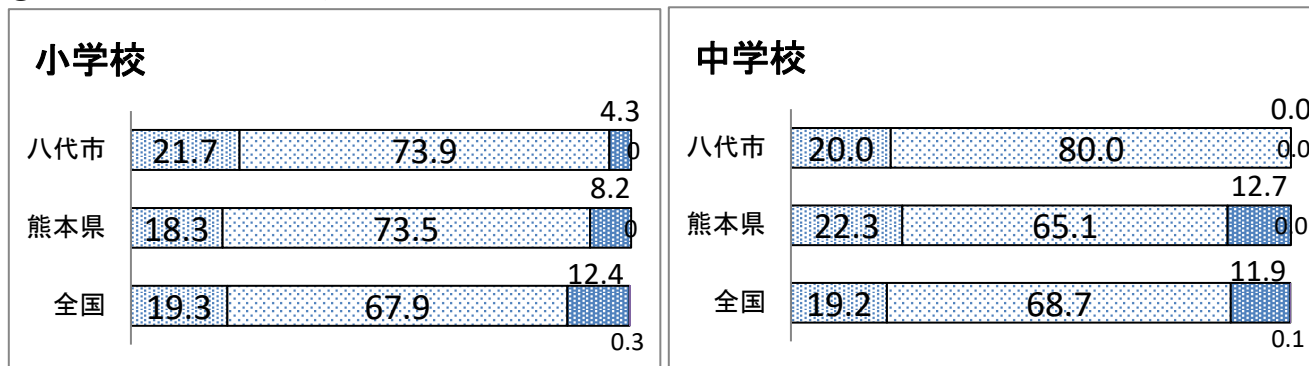
習得した知識をいかに活用し、発揮できるかにおいて課題がある。学習内容が「分かる」だけでなく、授業において考え表現する、例えば話すことや書くことをとおして、「知識を活用する」ことが重要になる。

(2) 質問紙調査(児童生徒、学校)

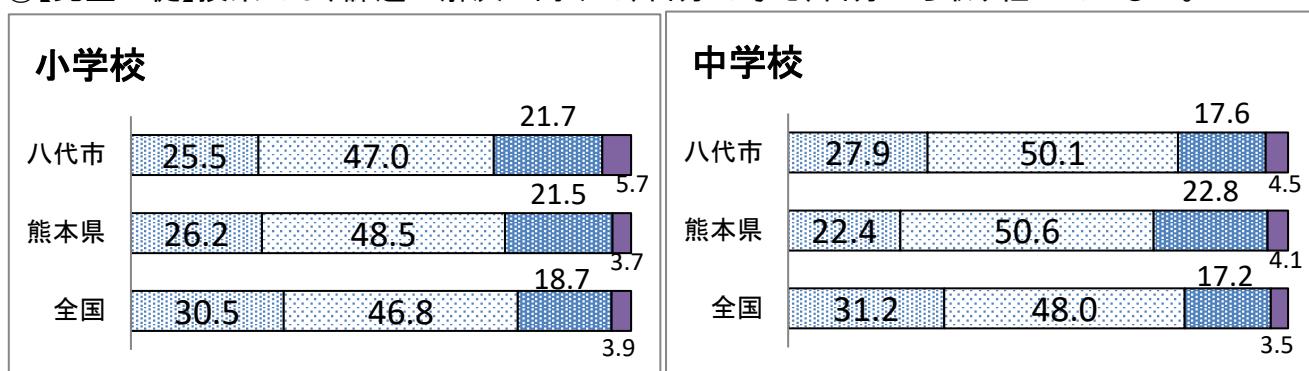
ア 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

そう思う
 
 どちらかと言えば、  
 そう思う
 
 どちらかと言えば、  
 そう思わない
 
 そう思わない
 ※ 数値は%

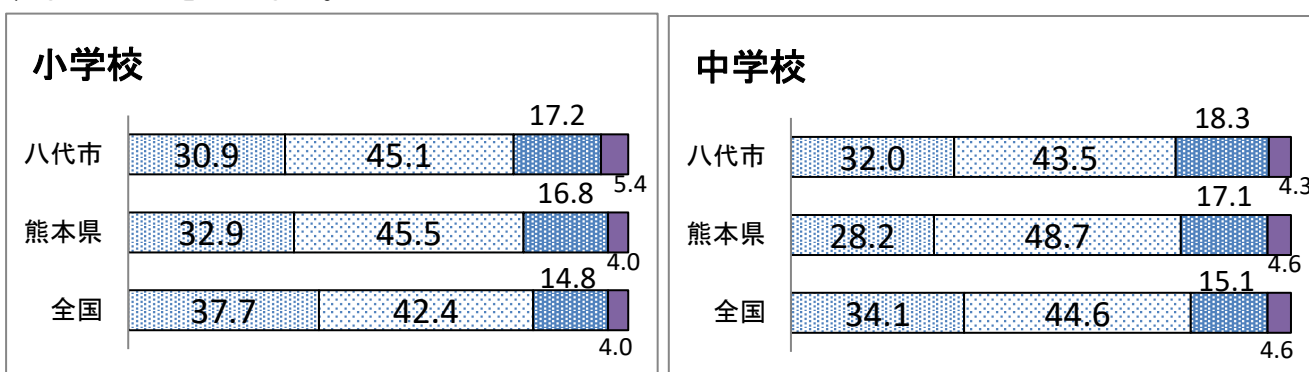
①【学校】児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。



②【児童生徒】授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。



③【児童生徒】学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができるか。



[結果より]

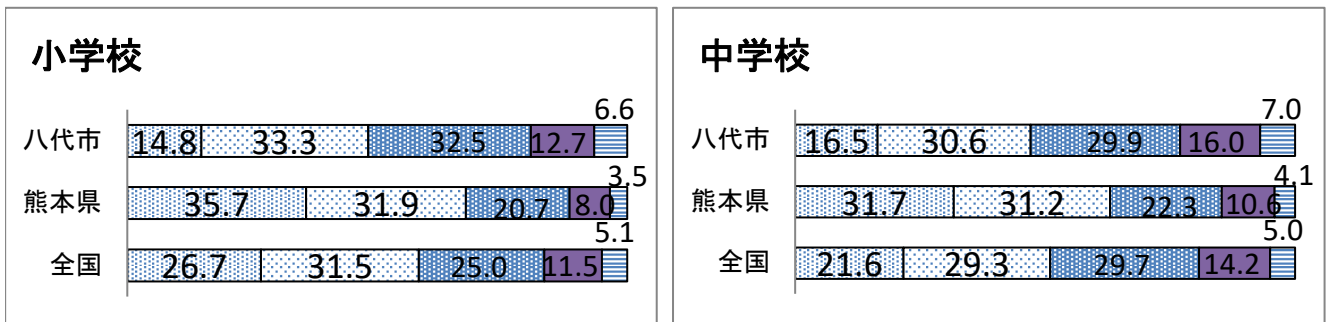
教職員は、全国と比較して、主体的・対話的で深い学びを意識して授業改善に取り組んでいる学校が多い。一方で、児童生徒自身が主体的な学びを実感している割合が少ない。また、対話をとって自分の学びを深めたり広げたりすることにおいても、全国に比べて低い結果となっている。

児童生徒が主体的に学んでいるという実感を持ち、進んで対話を通して学びを深めたり広げたりする授業が実現できているか、授業の振り返り等を活用して児童生徒の学びの状況を把握し、授業改善に取り組む必要がある。

## イ ICTを活用した学習状況

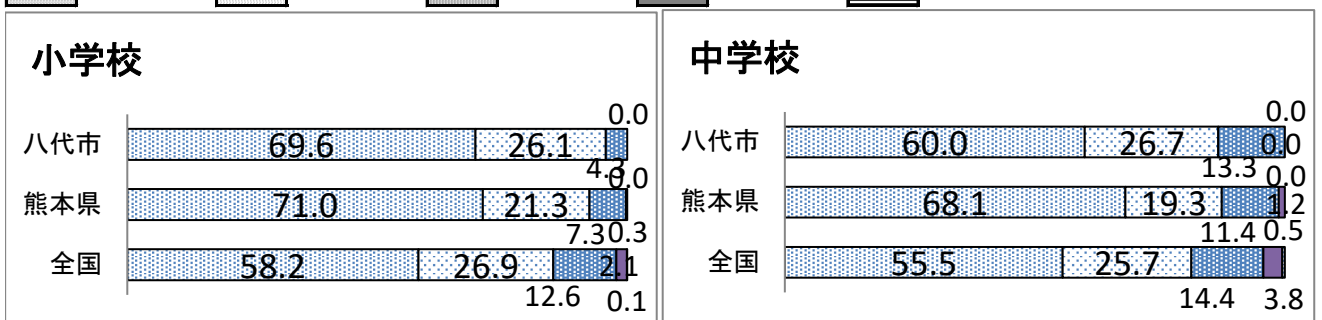
①【児童生徒】前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使ったか。

ほぼ毎日
  週3回以上
  週1回以上
  月一回以上
  月一回未満
 ※ 数値は%



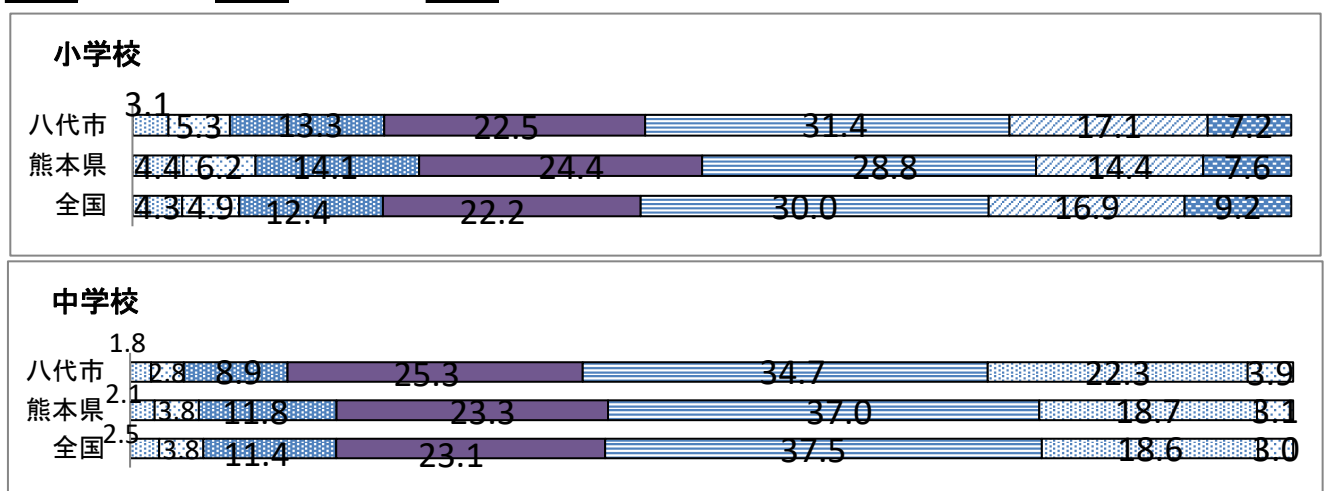
②【学校】前年度までに一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか。

ほぼ毎日
  週3回以上
  週1回以上
  月一回以上
  月一回未満
 ※ 数値は%



③【児童生徒】普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っているか。

3時間以上
  2~3時間
  1~2時間
  30分~1時間
  30分以下
  使っていない
  持っていない
 ※ 数値は%



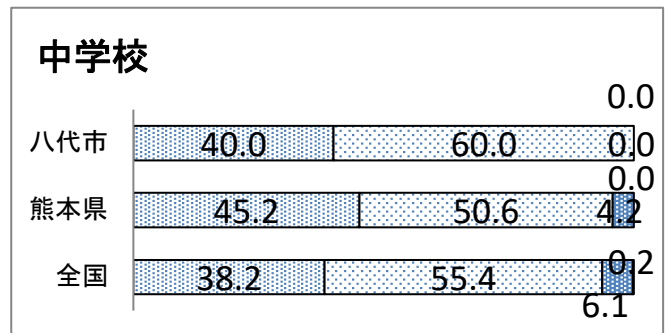
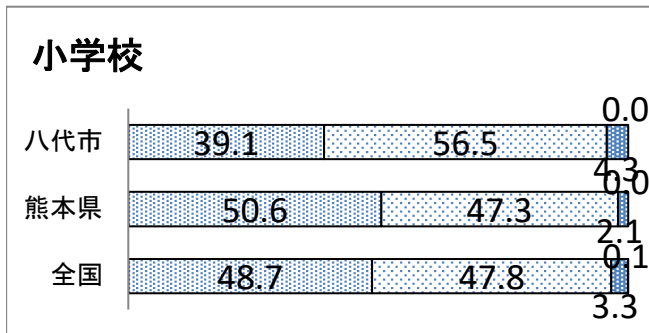
〔結果より〕

本市は、ICT機器を活用した授業に積極的に取り組んでいるが、熊本県全体と比較すると、やや低い数値である。調べる場面でのPC・タブレットの活用は多いが、友達と意見交換したり、考えをまとめ発表する場面での活用は少ない。今後、PC・タブレットを授業のみならず家庭学習等でも、学習に効果的に活用することができるようにしていく必要がある。

## ウ 家庭学習の取組状況

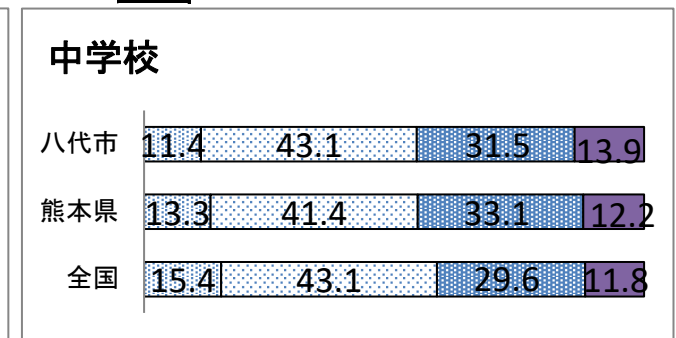
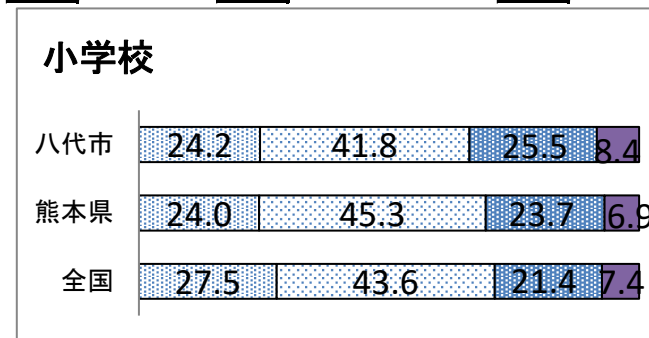
①【学校】前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたか。

よく行った    どちらかと言えば、行った    あまり行わなかった    行わなかった    ※ 数値は%



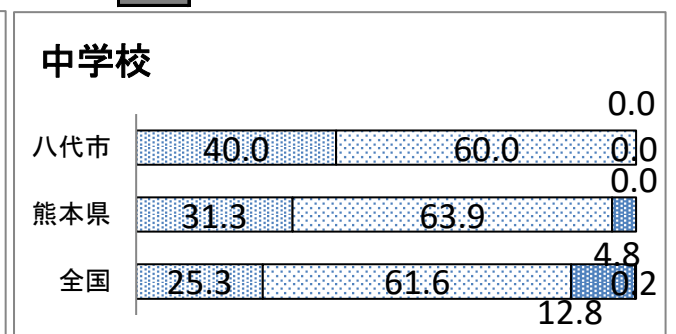
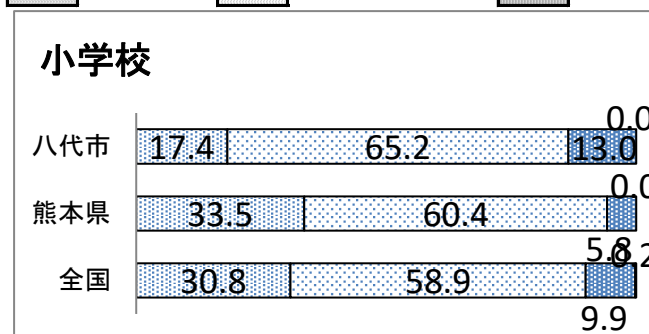
②【児童生徒】家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)

よくしている    ときどきしている    あまりしていない    全くしていない    ※ 数値は%



③【学校】前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしたか。

よく行った    どちらかと言えば、行った    あまり行わなかった    全く行わなかった    ※ 数値は%



〔結果より〕

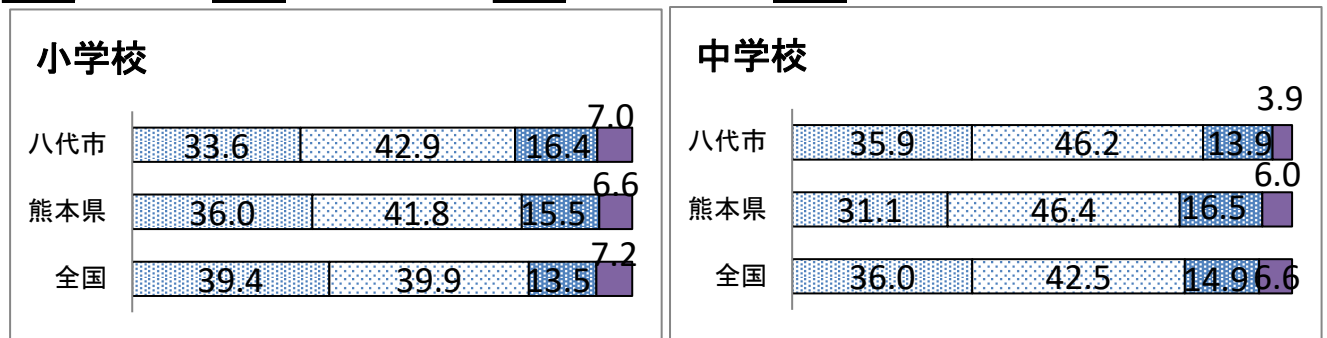
小学校、中学校共に計画的に家庭学習をする割合が低い。また、家庭学習の時間も全国と比較して短い傾向にある。

学校では、児童生徒に家庭での学習方法等について具体例を示したり、家庭学習の課題をその後の指導や児童生徒の学習に生かしたりして工夫している。今後、学校での取組が児童生徒の家庭学習の習慣化や学びの定着等に効果的であったか検証し、更なる工夫改善が必要である。また、家庭との連携の在り方も見直しながら取り組む必要がある。

## エ 児童生徒の生活及び意識

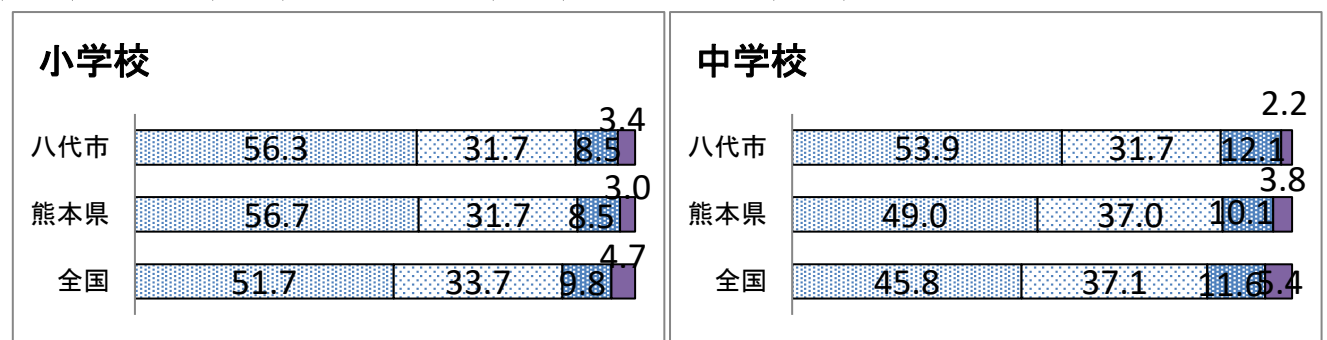
①【児童生徒】自分には、よいところがあると思うか。

当てはまる
  やや当てはまる
  あまり当てはまらない
  当てはまらない
 ※ 数値は%



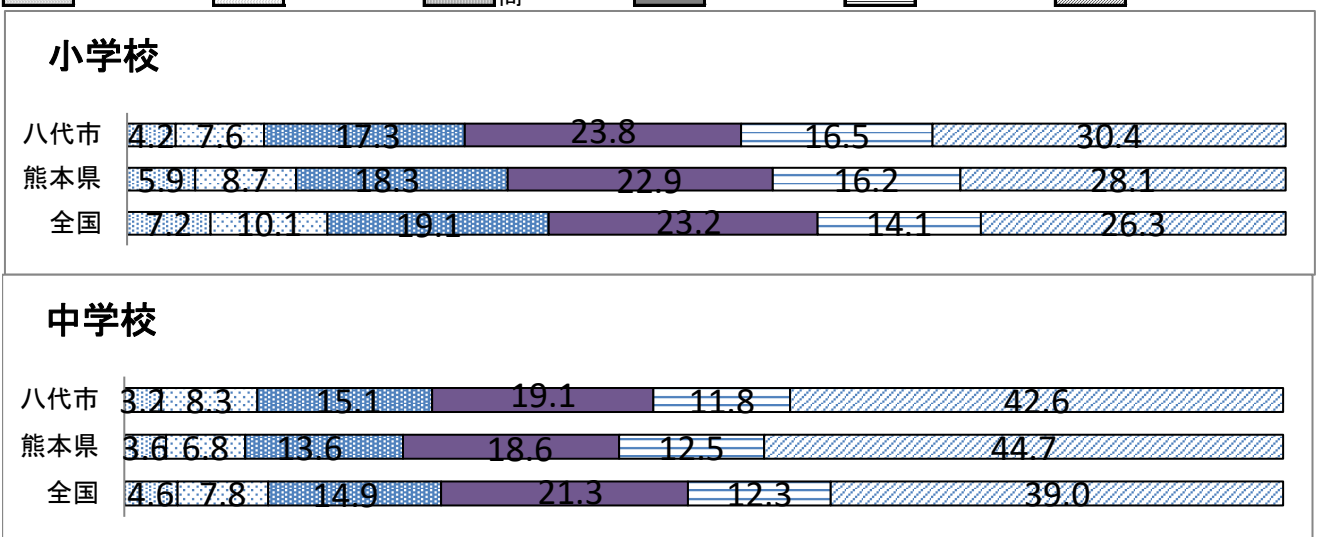
②【児童生徒】学校に行くのは楽しいと思うか。

当てはまる
  やや当てはまる
  あまり当てはまらない
  当てはまらない
 ※ 数値は%



③【児童生徒】学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

2時間以上
  1~2時間
  30分~1時間
  10~30分
  10分以下
  全くしない



〔結果より〕

①「自分にはよいところがある」に「当てはまる」と回答した小学生の割合が昨年度より伸びており、肯定的な回答が昨年度73.8%から今年度76.5%ポイント伸びている。中学生においては、全国の肯定率を上回っており、自己肯定感の高まりが見られる。



②「学校へ行くことが楽しい」と回答した児童生徒が全国に比べて多い。昨年度と比較しても肯定的な回答が増えており、コロナ禍の中であっても工夫した教育活動が行われている成果と考えられる。

③普段読書を全くしない児童生徒の割合が全国に比べて多いという結果だった。「読書は好きか」という質問に対しては、熊本県平均を上回り、全国平均と比較しても大きな差はないため、日常的な読書の時間の確保が必要である。

#### 4 これからの取組について

八代市教育委員会では、全国学力・学習状況調査をはじめとした様々な調査の結果を踏まえ、「やつしろの絆でつむぐ心豊かな人づくり」を教育理念として、次の3点を重点として確かな学力の育成に向けて取り組んでいきます。

##### (1)「学力向上やつしろプラン」の具現化

平成22年度に策定した「学力向上やつしろプラン」を具現化するため、令和2年度から「授業改善ステップワン」に八代市立の学校で取り組んでいます。

ア 授業において、児童生徒が主体となる場面を設定し、児童生徒一人一人が課題を追究し、互いに学びを深め広げることができるようにします。

イ 八代市立の学校に導入している1人1台タブレット端末を積極的、効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をより充実させます。

ウ 家庭学習の習慣化を目指し、各学校において学校総体で家庭学習について共通理解をして、児童生徒の実態に応じた課題を提示したり、授業と家庭学習を関連付けたりするなど工夫した取組を行います。

##### (2)「八代型小中一貫・連携教育」の推進

小中学校教職員それぞれがもつ専門性やきめ細かな指導など、互いのよさを生かした指導を通して、「育ちと学びの連続性」を図ることで、学力の向上を図ります。平成27年度から、八代市立の中学校区にて「八代型小中一貫・連携教育」を推進しています。

また、「自分からすすんであいさつをする」「話す人の顔を見てしっかり話を聴く」「靴のかかとを靴箱の手前のへりにそろえる」という3点の徹底を図る「やつしろスピリッツ」を八代市立の全学校・園で共通理解・共通実践を行っています。

今後も、各校区において「目指す15歳像」を共有し、児童生徒の豊かな育ちを目指し、「八代型小中一貫・連携教育」に取り組んでいきます。

##### (3)PDCA検証改善サイクルの充実

**令和4年度から、全国学力・学習状況調査や熊本県学力・学習状況調査に加えて、八代市独自に対象学年、教科を広げた学力・学習状況調査を実施しています。各学力・学習状況調査により、学校が適切な児童生徒の実態把握、授業改善に活用できるようになります。**

また、全国学力・学習状況調査や熊本県学力・学習状況調査の結果を踏まえ、八代市立各小中学校で課題解決に向けた取組を効果的に進めていけるように、校内研修や学校訪問等で具体策をアドバイスしていきます。

#### 5 おわりに

八代市の皆様には、日頃から学校教育の推進にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

八代市教育委員会では、今回の調査結果を真摯に受け止め、本市の子供たちの確かな学力の育成のために「認め、ほめ、励まし、伸ばす」という県の教育行動指標を踏まえ、指導方法の工夫改善に取り組んでいきます。

